

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験や観察などの体験をさせるなかで授業内容の理解を図り、一定の成果がみられた。
- ・実験や観察などを重点的に行い、まとめと考察を繰り返すことで、思考力・判断力・表現力が向上した。

(2) 課題

- ・時間がたつほど知識の定着が薄れるため、定期的に確認させることが必要である。
- ・実験や観察などに対する高い意欲を、学習課題に対する思考力や判断力、表現力につなげる必要がある。
- ・各自の苦手な部分、定着が必要な部分を自己分析し、改善に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	すべての観点で目標値を大きく下回った。 知識・技能及び、思考・判断・表現の観点での正答率は目標値よりも10ポイント以上下回っている。(第1学年時)	/	/
第2学年	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は上がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。 知識・技能よりも思考・判断・表現のポイントが高い傾向にある。(第2学年時)	3観点の中で、知識・技能の目標値を下回った。 また、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度の観点は、目標値を上回った。 目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。(第1学年時)	/
第3学年		すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は上がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。(第2学年時)	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は思考・判断・表現であった。

		(第1学年時)
--	--	---------

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
すべての分野において知識が身につけていない。また、実験の技能もほとんどが身につけていない。	正答率が4割を割り込んでおり、観点別の中でも特に身につけていない。	授業中や実験中など落ち着きのない場面が目立つ。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度1学期に学習した内容の知識・技能のポイントが低いため、知識技能の定着ができていない。	地学、物理分野の思考・判断・表現の正答率が低い。理科の考え方の規則性を考えることが苦手な傾向がある。	1年次の授業では、探求等を通して実験・観察への興味関心は高いように感じる。一方で自己調整する力や自ら知識を広げていこうとする力はあまりないように感じる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験結果や現象をふまえて解答する問題においては正答率が高く改善傾向にある。一方で化学変化に関する問題を中心に、実験に関する問いに現象を表現することにに関する問題は正答率が低かった。	実験結果等をふまえ、その関係性について推測する問題における正答率は目標値に近く改善傾向にある。一方で実験操作や現象における説明文の指摘に関する問題で正答率が低かった。	実験操作に関する問題への正答率は目標値に近く改善傾向にある。一方で実験結果が生じる理由を問う問題において正答率が低かった。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着を図るために、問題集などを用いて演習を繰り返し行う。また、定期的に小テストを行い、知識確認に時間をとっていく。	実験を積極的にを行い結果から考察をさせ、探究的な授業を行う。また、少人数の話し合い活動に取り組みさせる。	教科書で扱う法則や実験などを、身の回りの現象と結び付けさせるように扱う。また、それぞれの単元において実際の社会でどのようなところでその単元が活躍しているのかを考える指導をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着を図るために、ドリルパーク等のICTを活用して知識の定着を図る。また、単元テストや小テストを増やして知識の定着を図る。	実験や観察などで、少人数の話し合い活動を行わせ、探究的に課題に取り組ませることを行う。また、実験の目的や実験操作の理由をおさえながら授業を行う。	教科書で扱う法則や実験などを、身の回りの現象と結び付けさせるように扱い、興味関心を引き出す。また、授業で振り返りの時間を設けて、自己調整する力を身に付けさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学式や化学反応式において苦手意識が高く、知識の定着につながるような演習問題を多く解かせて定着につなげる。また化学・物理分野の目に見えない事象に関して深い理解につなげる取組の工夫を行っていく。	説明文への指摘など事物、現象に対する応用的な見方、考え方を養うような活動を取り入れ、思考力を高める授業展開に努める。	学習内容と日常との関連を考えて学ぶような内容を授業に導入し、興味関心を高めると共に、理科の法則や実験結果と身のまわりの現象と結び付けさせるような授業展開に取り組む。